令和6年度　神奈川県立平塚看護大学校
ＡＯ入学試験　筆記試験　問題用紙

注意事項

＊　指示があるまでは中を見てはいけません。
＊　解答はすべて解答用紙に記入してください。
＊　問題用紙と解答用紙それぞれに受験番号、氏名を記入してください。
＊　必要に応じて問題用紙の余白や裏面にメモをとることは構いません。
＊　試験終了までは原則として退場を認めません。

受験番号	氏　　名

［問題］　以下の会話Ⅰ・会話Ⅱでは、三人の学生（平塚君、藤沢君、二宮君）が、「多様性」について話し合っている。これをよく読んで後の問いに答えよ。

会話Ⅰ

平塚　近年、「多様性」という言葉をよく聞くようになったね。最近ではヒット曲のタイトルにも使われているくらいだから、一般的なものになったと言っていいと思う。

藤沢　「多様性」という言葉の意味はそれこそ多様なのだけど、人間社会については「集団のなかに異なる特性や特徴を持つ人々がともに存在する」ことを指しているみたいだね。

二宮　でも、なぜ最近になってこの言葉を耳にすることが増えたんだろう。何か背景がありそうだ。

平塚　(1)人の移動が活発になったことは間違いなく影響しているだろうね。自分が慣れ親しんだ土地を離れて、異なった場所で働いたり生活したりすることは珍しくなくなった。また、不幸な話ではあるけれど、政治的な理由で移動を余儀なくされる人もいる。もう一つは、情報を伝達したり拡散したりする手段がここ数十年で大きく発達したことだ。もちろん、昔から社会を構成する人々は一様なありかたをしていたわけではない。でも、人数が少ない、あるいは発言する手段を持たない人たちに触れる機会はあまりなかったと思う。今ではそうした「マイノリティ」と呼ばれる人たちも含めて、人々がおたがいについて知る機会が大幅に増えた。その結果、一つの社会の中に様々な特性や特徴を持つ人がいることに改めて気づかされた。これらのことが、社会に多様性をもたらしたり、私たちが多様性について知ったりするきっかけになったと思う。

藤沢　いま平塚君が挙げた二つ目の点については、おそらく多くの人が無縁ではありえない。たとえば進学、就職、結婚といった場面を考えてみたい。どの学校や学科に進むか、どのような職に就くか、誰といつ結婚するか、あるいはそもそも結婚するかしないか、こうした人生において重要な局面で、「自分の選択は世間の『常識』に反しているのではないか、決められた『道』を外れているのではないか」と悩む人は多かったと思う。もちろん今も多いだろうけど、それでも「こうしなければならない」という圧力はかつてほど強くないように感じられる。「多様性」という概念は、そうした傾向を後押ししているのではないかな。ひとりひとりのありかたや選択をたがいに尊重しながら共に生きていくべきだという考えが、この概念には込められている。

二宮　いま平塚君と藤沢君の説明を聞いて、「多様性」の背景は何となく分かったような気がするけど、(2)二人の言うことが少し異なっているように見えたし、納得できないところがある。二人とも「多様性は尊重すべきである」と考えているんだよね。

藤沢　僕はそう考えているよ。

平塚　僕もだよ。その点につては藤沢君と同意見だ。

二宮　平塚君が言っているのは単なる事実だ。そこから「多様性を尊重すべきである」という結論は出てこない。それに対して、藤沢君は事実だけでなく理念にも触れている。藤沢君の議論は「多様性を尊重すべきである」ということを前提にしているように思える。結果として、平塚君も藤沢君も「多様性を尊重すべきである」ことの根拠を明らかにしていない。

会話Ⅱ

平塚　では改めて、多様性について話し合ってみよう。二宮君はさっき僕や藤沢君の意見に納得していなかったみたいだけど、多様性についてどう考えているのかな。

二宮　平塚君の言うとおり、世の中には様々な特徴や特性をもった人がいる。ひとりひとりのありかたを尊重すると言えば聞こえはいいし、そうできるのであればそれに越したことはない。でも、実際にはたがいのありかたや生き方をどうしても認められないこともあると思う。そうした場合に、無理をしてまで一つの集団の中でともに暮らす必要はあるだろうか。「多様性の尊重」を強調しすぎると、逆にトラブルにつながるのではないかと心配になる。余計な *軋轢(あつれき)や争いが生じるのを避けるためにも、相容れないもの同士はあまり近づかないようにする方がたがいのためではないだろうか。

藤沢　そうすると、社会は小集団に分断されてしまうことになりかねない。そうなると、自分とは異なった人々、違う集団に属する人々を理解しようという気持ちはなかなか生じないと思う。というより、「どうしても認められない」という感情自体、自分とは異なった人に触れようとせず、無理解なままにとどまっていることに由来するのではないかな。

平塚　(3)順序が逆だというわけだね。僕が考えているのはもっと単純なことだ。さっきも言ったとおり、今日の世界では人の移動が活発になっている。自分の近くにいる人と相容れないからという理由で一切接触を断つなどということはできないよ。好むと好まざるとにかかわらず、僕たちは自分と異なる特性・特徴を持つ人と共存するしかない。「多様性」を受け入れないと生きていけない時代になっているのだと思う。

二宮　具体的に考えてみたいと思う。たとえば、早朝や深夜に大きな音を立てるような慣習を持つ人々がいたとしよう。そうした人たちと隣近所で生活するのはなかなか難しいと思うけどね。

藤沢　具体的に考えるのであれば、その場合まず話し合うべきだと思う。そのうえで早朝や深夜に大きな音を立てる慣習が彼らにとってどうしても必要なのか、欠かせないものなのかを問うべきだ。「その人のありかた」といっても、他の人とともに暮らす以上優先順位は定めなければならないし、もしそこまで重要な慣習でないならばやめてもらうよう説得すべきではないか。

二宮　もし相手が譲らなかったら？

藤沢　たがいにどうしても譲れなかったら、最終的には二宮君の言うように互いにかかわらずに済む方法を考えたほうがいいかもしれない。ただ、これはあくまでも最終手段だ。ともに暮らすということを途中であきらめるべきではない。

平塚　この点に関しては、僕も藤沢君と同意見だ。「多様性」という言葉を掲げるのは出発点に過ぎない。さまざまな特徴や特性をもつ人々がともに暮らしていける社会を作るためには不断の努力が必要だと思う。

*軋轢(あつれき)　仲が悪くなること

問１　傍線部(1)「人の移動が活発になった」とあるが、平塚君はなぜこのことが社会に多様性をもたらしたと考えているか説明せよ。

問２　傍線部(2)「二人の言うことが少し異なっている」とあるが、二宮君は平塚君と藤沢君の説明がどう異なっていると思ったのか会話Ⅰの全体を参考にし説明せよ。

問３　傍線部(3)「順序が逆」とあるが、二宮君と藤沢君の考えはどのように「順序が逆」なのか説明せよ。

問４　多様性についてどう考えるか。会話Ⅰ・会話Ⅱのいずれか（あるいは両方）を踏まえ、自身の考えを300～350字で述べよ。その際、自身で考えた具体例を必ず示すこと。